

初選定！姫川港と伏木富山港がサーキュラーエコノミーポートに

国土交通省は、循環経済（サーキュラーエコノミー）の実現に向け、循環資源に関する物流ネットワークの拠点の形成や高度なリサイクル技術を有する産業の集積に取り組む港湾を「循環経済拠点港湾（サーキュラーエコノミーポート）」として選定しました。

北陸地方整備局管内においては、姫川港（新潟県）及び伏木富山港（富山県）の2港が選定されました。

1. サークュラーエコノミーポートとは

サーキュラーエコノミーとは、資源や製品の価値を維持、回復又は付加することで、循環的に利用する経済システムであり、製品等の長寿命化、再利用、リサイクル等の取組を循環資源の需給両面から促進し、天然資源利用や廃棄物排出を減少させる経済システムです。

サーキュラーエコノミーポートは、循環資源の流動・種類の増大、小口の循環資源の輸送ニーズへの対応、周辺環境や他の貨物への影響を防止するための対策など、サーキュラーエコノミーを巡る様々な社会的要請に取り組む港湾であり、港湾管理者、リサイクル関連企業、物流事業者、関係省庁など、多様な主体と共に連携しながら、サーキュラーエコノミーの実現を目指すもので、国土交通省港湾局が選定します。

今回、全国で29港が初めて選定されました。

2. 北陸管内の選定港概要

各港の概要は別紙－1のとおりです。

3. その他

選定書の交付式を別途予定しています。詳細が決まりましたら改めてお知らせします。

【同時発表記者クラブ】

新潟県政記者会
富山県政記者クラブ
専門紙

【問い合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 港湾空港部

クルーズ振興・港湾物流企画室長 水内（みずうち）

課長補佐 桜井（さくらい）

TEL 025-370-6706

1. 申請港概要

- 港湾管理者 新潟県
- 担当部署 新潟県交通政策局
港湾整備課計画調査係
- 地元自治体 糸魚川市
- 姫川港は県の南西部に位置し、一級河川である姫川の河口右岸側に築かれた掘り込み式港湾である。

周辺地域では、推定埋蔵量50億トンに及ぶ石灰石が産出されており、これを背景に化学工業やセメント産業とともに発展してきた。平成15年には、セメント産業に関連して循環資源を積極的に取り扱ってきたことが評価され、リサイクルポートの指定を受けた。

令和3年には西ふ頭において12,000トン級の岸壁が完成し、港湾機能の一層の強化と利便性の向上が図られている。



国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 姫川港では、セメント産業を中心に年間約50万トンの循環資源を受入れており、港湾を核とした静脈物流システムの安定的な構築に寄与する役割を担っています。
- 姫川港では、循環資源の受入れ・保管に伴う粉塵の飛散防止対策として防塵柵を設置しており、周辺環境や他の港湾利用への影響の低減に配慮した港湾運営を行っています。
- ☆ 姫川港背後には、廃棄物をセメント製造の原燃料として有効活用する技術を有し、広域的な受入を行うセメント工場の立地をはじめ、更生タイヤ工場、バイオマス発電所、一般ごみの処理施設等が立地しています。更に、糸魚川市では港湾とセメント工場の立地特性をセールスポイントとしてリサイクル関連企業の誘致を積極的に進めることとしています。
また、令和6年能登半島地震で発生した災害廃棄物については、海上輸送による広域処理を受け入れ、背後立地企業と連携して円滑な処理および資源の有効活用に取り組んできました。
これらの実績を踏まえ、今後も災害時における迅速かつ安定的な対応を可能とするため、災害廃棄物の広域処理体制の整備と計画的な運用を進め、循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの推進に取り組めます。



3. その他

- ① 明星セメント(株) 糸魚川工場
- ② サミット明星パワー(株) バイオマス発電プラント
- ③ 明星セメント(株) バイオマス燃料化プラント
- ④ 太平洋セメント(株) 糸魚川発電所



1. 申請港概要

- 港湾管理者 富山県
- 担当部署 富山県土木部港湾課
- 地元自治体 富山市、高岡市、射水市
- 伏木富山港は、日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、富山の中心都市圏である富山高岡広域都市圏を背後に擁する港湾であり、富山県を中心に北陸地方の物流拠点として、きわめて重要な役割を担っている。

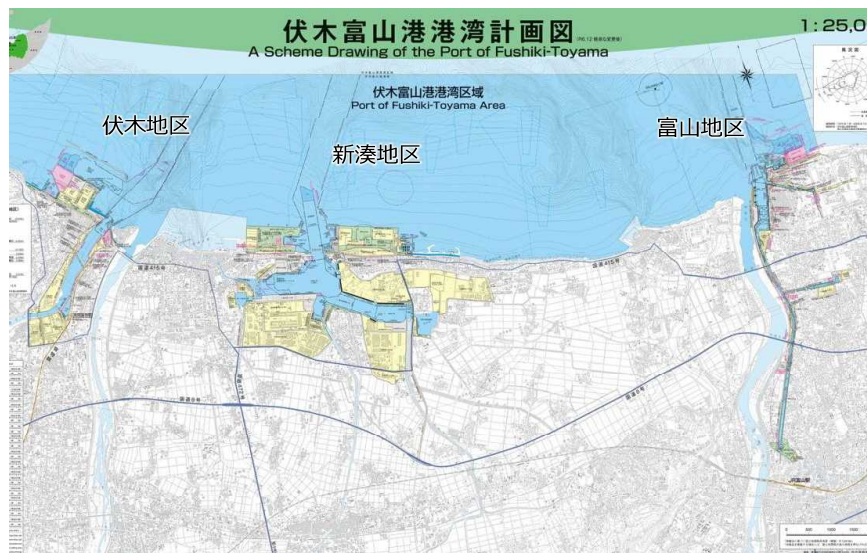
伏木富山港は、伏木地区、新湊地区、富山地区の3地区から構成され、水深10m以上の大型岸壁を計18バース有し、定期航路が6航路40便/月体制で運航されている。

新湊地区周辺には、本県の基幹産業であるアルミ関連の工場やリサイクル施設が立地し、リサイクル材を再製品化した貨物を国内外に輸移出する取組みが行われており、サーキュラーエコノミーに資する港として貢献している。



国土地理院地図より

■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 循環資源である金属くずや再利用資材などの取扱いがあり、令和6年の金属くずの取扱貨物量は約18万トンです。また、コンテナ貨物による小口輸送ニーズに対応するとともに、コンテナ貨物及びバルク貨物の双方に対応した港湾機能を活かし、多種多様な循環資源の円滑な受け入れにも対応しています。
- 金属くず等から油を含む汚水が発生する可能性があることから、油水分離槽を設置しています。
- 「災害廃棄物中部ブロック広域連携計画」等により、災害廃棄物の広域処理体制が整備されています。
- ☆ 富山地区には、金属類やプラスチック類などを回収する自動車リサイクル施設などが隣接して立地しており、伏木地区や新湊地区においても、大型車両リサイクル施設やアルミをはじめとした非鉄金属リサイクル施設、太陽光パネルリサイクル施設などのリサイクル関連施設が立地しています。さらに、「富山県企業誘致戦略」において、資源循環産業を含むグリーン分野を重点分野と位置付け、企業誘致を強化しているほか、「富山県サーキュラーエコノミー推進ロードマップ」を策定しており、県を挙げてサーキュラーエコノミーへの移行に積極的に取り組んでいます。また、港湾においては、循環資源の船舶での受入れ、搬出の拡大を目指しています。

3. その他



伏木地区



新湊地区



富山地区